

第 16 回松阪市環境基本計画策定委員会

日時 平成 18 年 10 月 30 日（月） 13 時 30 分～15 時 40 分



場所 松阪市教育委員会 1 階会議室

議題

- (1) 環境パートナーシップのあり方 (1)
- (2) 「パートナーシップ」事例紹介
- (3) 意見交換会
- (4) その他

出席者 10 名

策定委員会委員 6 名

西 孝、石川通子、石村武紀、川村敏也、小坂滋子、水本和雄

三重県松阪農林商工環境事務所環境室環境課 1 名

濱口千尋主査

事務局 3 名

三田環境推進担当主幹、谷岡環境推進担当主査、若山環境推進係主任



議事の内容

(1) 環境パートナーシップのあり方 (1)

委員長：「環境基本計画」を実行、定着化させていくために、こういう仕組みをきちんとつくっておかないと進んでいかない、ということで『パートナーシップ会議』というものを考えて、つくっていく必要があるのではないかと。ですので、皆さんにもいろいろお考え頂いたりすると思います。他の地域でもそのようなものがあるので、それを整理したものが資料になっています。説明願います。

事務局：『パートナーシップ会議』は「環境基本計画」の中でも重要な部分であるので、もう少し掘り下げて方向性を考えて欲しい、というのが環境審議会の意見です。なので、これからは『パートナーシップ会議』のあり方について、考えていきたいと思っています。パートナーシップが主体間の対等な関係に重点を置くのに対し、コラボレーションとはその関係を踏まえて協働行為を起こすという活動面に重点を置いたもの。『パートナーシップ会議』はコラボレイトの部分も含むものになり、関係性を保って活動を行っていく、そういう組織に位置付けられます。しかし、パートナーシップとは、各主体の持ち味や特性を活かし、目標の実現に向けての役割分担が重要とほいうものの、実際にはお互いの認識不足や経験不足などから、環境パートナーシップの構築はスムーズにいかないのが現実問題としてあります。そこで、日本で最初に立ち上げ、現在も全国トップクラスの『豊中市環境パートナーシップ会議』の中心的な立場をとられた川崎さんが「パートナーシップ会議とは、市民と行政が、共通の目標を実現するために、対等の立場と公開の原則のもとで、情報を共有し、相手を尊重し、違いを認め・活かしておこなう『活動』である。」と、自分の実体験を基に言われています。次に、組織化ですが、出発点は2つあります。テーマ別の環境パートナーシップ組織と、トータルな環境パートナーシップ組織に分かれます。環境パートナーシップ組織における成熟範囲ですが、団体・個人レベルから企業が加わり、そこに自治組織が加わる、というふうに大きくなります。また、発展段階として、交流期で情報交換を行い、共有期で目標の共通認識や企画検討、実現期ではその企画の実行、そして自立・発展期で連携範囲の拡大と組織の自立を目指します。この『環境パートナーシップ会議』を立ち上げるに当たって、3つのポイントがあります。リーダーとなる人材の問題、資金問題、情報の問題、これら3つのポイントから、それぞれの段階における課題などを皆さんに考えていただきたい。そして、その段階において解決策を提案していただきたい。

委員長：いろいろ活動をされている方、どうですか。

委員：同じ目的を持って、好きな人が寄ってやっている。吉田市長が、行政で出来ない事をやって欲しいと言われた。文化財を残す会はたくさんあるが、それを活

かす団体はなかったので、会を作り活動を始めた。行政を助けるということから始まった。県や市との共同企画も行っている。資金繰りは大変だが、なるべく個人負担が少ないようにやっている。運営は大変だが、地元の協力もあり、同じ目的を持って自分の好きな事をやっているの、今もなお続いている。

委員長：その段階にいくまでがなかなか大変だと思う。資金面や情報面の問題もあり、行政サイドの協力の問題もあると思う。

(2) 「パートナーシップ」事例紹介

※ 「ごみゼロ社会実現プラン」について、濱口主査より説明。

市町域を越えた広域の問題や地域課題に対応して県と市町との広域連携を進めることで、創意工夫に満ちた地域づくりの促進を図る事を趣旨として、平成12年7月「環境事務担当者パートナーシップ会議」を設置。

会議は、県民局生活部および管内市町村関係各課の代表、その他必要と思われる者をもって構成。

平成12年～平成18年の間で計24回開催。

平成37年度を目標年度にした「ごみゼロ社会実現プログラム」を平成17年3月に策定。

「地域ごみゼロ推進交流会」に平成17年度から取り組み、平成18年度に3回開催した。

パートナーシップ会議がそれなりに機能していた事と、リーダーシップのある上司と自然環境室勤務経験のある職員がいたことが、『強み』となった。

環境法令規制がメインの仕事であるため、住民と何かをする経験が少ないことや、職員の異動などは『弱み』となった。

会の企画を行政だけで行っているため、住民のニーズにあっているのかわからないので、企画段階から住民と一緒にできるようにしたい。

ホームページに情報提供してくれる団体が固定化されるため、積極的な取材が必要。

無理は続かない、相手に無理強いしない、リーダーシップは必要、また、自分が動く、できること・できるかもしれないこと・出来ない事を理解する、などは今回やってみて思ったこと。

市町担当者と一緒に進めたこと、住民を直接尋ねたこと、予算をあてにできなかったこと等は、良かったと思える。

目に見える成果（数字）を期待されることや、周囲の期待が高くなることは、困ること。

委員長：「パートナーシップ会議」と「ごみゼロプラン」の関係性は？

濱口：「パートナーシップ会議」は以前からあったので、「交流会」を開催すると決めた時に、既存の組織を利用したということ。

委員長：要するに、県と市町村担当者との会議。

濱口：交流会は住民を交えたものだったので、今までやったことがなかった。住民に近いということで、市町村の担当者を。

委員：これは松阪地区だけですね。他の地区との交流は？

濱口：他の地区との交流はありません。

委員：是非とも、他の地区にも広めて欲しい。

濱口：飯南町の生ゴミ施設の見学など、各団体では個別に行っているが、県の組織が中心となって交流を行うというのは、まだ無い。

委員：もう少し県がやって欲しい。

委員：平成12年から知事が代わってるが、流れに変化はないのか。

濱口：パートナーシップというのは、前の知事が好きな言葉でした。前の知事は発想の転換からやめたものが多い。担当者会議もその一つ。しかし、今また復活してきている。

(3) 意見交換会

委員：さきほど言われたように、好きな人がやっていることが大事だと思う。でないとなかなか進まない。行政に出来ない事をやるという市長の言葉が、トップのリーダーシップとして重要だと思う。

委員：私の会では既に「川をきれいにする会」をやっているが、年に1回ごみ拾いの日を設けて、行政が呼びかけてやって欲しい。

委員：私も川の清掃をしているが、スーパーのビニール袋が一番多い。欲しい人はお金を出して買うようにすれば、もっとゴミが減ると思う。

委員：既にやっているスーパーもある。

委員：買い物に行くと付いてくる、トレーがいらぬ。分別して捨てているが、色物は捨てられない。

委員：回収しているスーパーもある。

委員長：それには業者の協力も必要。

委員：ゴミを持ち帰るようにしないとイケない。

委員：持ち帰ってもゴミは出る。ゴミを減らすことが大事。

委員長：他に活動されている方はどうですか。行政の異動で困ることがあるのでは？

委員：私の会は、女性の目から見た環境問題を取り上げている。行政も知っているので、担当者が代わっても、毎年総会を開いて計画書を出している。会の歩みも書いてあるので、それを読んでもらえば困ることは無い。

委員長：そういう風にきちんとできればいいが、そうでないと問題が出てくる。できれば行政は代わらない方がいいが、そうもいかないのだから、違う組織が間に入ってやるのが一番望ましい。

委員：私の会は必ず総会を開く、会議の時は事項書を作るなどしている。実績がものを言うので、補助金も出してもらっていた。合併後は補助金がないので、自分たちで小物を作って売るなどして、会の資金を稼いでいる。行政には肉体的労働をお願いしているが、研修などは自分たちで行っている。「ぼかし」などの売上は社会福祉協議会の善意銀行に、自分たちの活動資金は会費やりサイクル、文化祭での半額販売のときの売上などを充てている。

委員長：事務所はありますか？

委員：町の施設の研修センターを借りている。あとは、会のメンバーの自宅を使っている。施設は欲しいが、光熱費の問題もある。

委員長：交流の場をつくり続けていくには、会員だけの力では無理なこともあると思うが。

委員：団体のネットワークづくりが難しい。合併前に産廃対策として「嬉野の環境を考える会」もあったが、今も組織だけは残してある。

委員長：市民の力だけでは限界があるのでは。

委員：やりたい人がやって、行政が応援するというのがいいと思う。嬉野もお金がないのか、なかなかタッチしたまらない。行政の考えと私の考えが違うので、担当が代われればなんとかなるかなと。

委員：飯南の生ゴミ堆肥もそう。衣装ケースは時間が経つと傷んでくる。飯南町の時は、新しいものに換えてくれた。合併後は、自分たちで買い換えろと言う。

委員：補助金が出ていたものが、今は出ない。

委員：そういうところに補助をしてもらえると、皆やる気が出る。

委員：一人でも活動が増えれば、市町は助かると思う。

委員：旧飯南はゴミの量が少なかったが、合併して増えた。地区に応じた細かな政策が必要となってくる。

委員：衣装ケースの800円を出すのと、出さないのでは違ってくる。

委員長：そのくらいの金額は個人が出せないことも無いが、やはり行政が負担したらどうかな。三方うまくいくような仕組みづくりが必要では。

委員：昔は町長がいたが、今は出張所で職員だけ。面倒なので、地元の人には断りばかり言っていると思う。この間のシンポジウムも振興局は知らない。逆に振興局のことをこちらはわからない。ポスターだけで無く放送するなどして、もっと知らせることが必要。

委員：嬉野などの学校も、合併前には出ていた補助が合併後は出なくなり、不満らしい。

事務局：大盤振る舞いもいいが、大元が倒れてしまうと困るので、皆さんには財布を見てもらって、少し考えてもらいたい。

事務局：県の『松阪地方の環境』というホームページは実によくできている。市よりも県の方が団体数を良く知っている。これは交流会の成果が出ていると思う。い

ろんなイベントがたくさんあって、人の取り合いをしている。交流と言う意味で、既存のイベントを利用したり、連携を図ったりするのもいい。今の活動を知ることが必要であり、重要である。

委員長：早い段階に情報の確保、交換ができるといい。

(4) その他

濱口：環境団体への働きかけが必要。こちらが設定するよりは、地域の方からの声の方が大事だと思う。もし、何かあれば一緒にさせて欲しいのでよろしくをお願いします。

委員長：今回は11月16日ですね。パブリックコメントはその時わかりますか？

委員：環境に取り組んでいる団体はわかりますか？

事務局：市民活動センター抜きでは「パートナーシップ会議」は語れないと思うので、代表者にいずれこちらに来ていただいて。

委員：向こうに行ったほうがよくわかる。向こうで会議をすればいい。

事務局：では、また検討して。

委員長：今日はこれで。